

## 海外留学等体験談

出 発 時 学 年	高校 1 年生	
留 学 期 間	令和 7 年 1 月 26 日 ～ 令和 8 年 1 月 3 日	
留 学 先	国 名	オーストラリア
留学しようと思ったきっかけ (250 字程度)	<p>交換留学をすることでたくさんの人と出会い、帰国後も続くような交友関係を作りたかった。今の世の中を見てみると、国際関係は穏やかとは言えず、戦争や差別が続いている。将来を担う若者の一人として、そのような悲劇を二度と起こさないために、さまざまな人種、考え方、文化を持った人に触れて、わかり合いたいと思った。</p> <p>また、英語力を向上させることで海外進学や就職を視野に入れ、将来の選択肢を広げようと思った。</p> <p>さらに、私の学校で留学をする人はあまりおらず、敷居の高いものとなっているため、留学を迷っている人の布石になり、その人たちの後押しをしたいと考えた。</p>	
留学を終えて・留学する前の自分と比べて (300 字程度)	<p>留学をする前の私はやはり視野が狭く、寛容性にかける部分があったと思う。はっきりと理想があるタイプで、自身の信念に添わない場合は他人を理解する前に、決めつけて突き放すことが多かった。しかし、留学をして世界は本当に広く、考え方も一万遍あるのだと経験した今は、他人に腹が立つこともあまりなくなった。自分と違う考え方があることを否定するのではなく、それを受け入れて、かつ自分の意見と比較して良いものを最終的に選ぶ、といったようなことができるようになった。</p> <p>また、ホストファミリーという存在はあったものの、今まで以上に自分一人で生活を管理しなければいけない場面は多く、自立性が増した。</p> <p>さらには、ロータリーを通して年配の人と話す機会が増えたことで、大人との交流の仕方や会話にかける積極性、話の引き出し方などが自然とできるようになった。</p>	
印象に残っていること 苦労したこと (150 字程度)	<p>最も苦労したのは、アジア人あるいは日本人としてくくられることとそれに伴う偏見や差別だった。頭の中で実際に差別があるということは理解していても、それを自分が実際にされる側、それがどれくらい悲しく、またやるせないことかということを分かってはいなかった。留学の期間中、実際にグループの中から疎外されたり、日本の歴史について揶揄<small>からか</small>われたりすることがあり、その度にうまく言い返せない自分や、説明できても理解されないもどかしさを感じた。</p>	
将来について・今後の目標 (150 字程度)	<p>私の目標は、オーストラリアで文化人類学を学び、宗教が社会と経済の両方に与える影響を理解することだ。どんな職業に就くかは</p>	

	<p>まだ具体的には決めていないが、人類を理解したいという情熱が私を導いてくれると確信している。</p> <p>最終的には、世界の紛争の軽減に貢献したいと思っている。宗教は人々を分断することもあり、人々を結びつける力も持っていると思う。宗教を学ぶことで、平和への新しい道を見つけるために、私はより広い学び方ができるオーストラリアでの進学を目指したい。</p>
留学を希望する人へアドバイス (150 字程度)	<p>留學生活というのは想像していたようなキラキラしたものだけではない。言われもないことを言われたり、言語の壁と心から分かり合えない悲しさ、無力さを味わったりすることになるだろう。しかし、私がこの一年で得たものが何物にも変え難いように、そのような紆余曲折や苦勞を経験して、精神的に成熟し、もっと広い見方で自分の周りの世界を見ることができるようになると思う。</p>

